

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛成会	代表者	理事長 佐々木 哲	法人・事業所の特徴	法人の「愛・行動・感謝」という基本理念に基づき、事業所として『私たちは、利用者様一人ひとりを【尊重】し、【自分らしさ】と【生きがい】を持って、安心した暮らしが継続できるよう支援します』の理念を掲げ、ご利用者様にとって安心と信頼を得られる福祉サービスの実践に努めます。
事業所名	小規模多機能ホーム 自由ヶ丘	管理者	齋藤 大輔		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者と社会資源の繋がりを意識した関わりを実践するために、スタッフ各々が地域に関心をもち、積極的に関わっていく。	新型コロナウイルスの影響で、利用者と社会資源の繋がりが、病院や理容院など必要最低限のものとなってしまった。今後も感染リスクに配慮しながらの対応を検討していく。	新型コロナウイルスの影響で様々な制限がある中で、できることを工夫しながら取り組んでいることが理解できた。	新型コロナウイルスの感染症対策を講じながらも、可能な限り地域との繋がりを意識した取組みを実践していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者はもちろん、事業所を訪れるすべての人にとって居心地の良い、清潔な環境作りを継続していく。	利用する方が安心して利用できるよう、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した環境整備（手洗い場、加湿空気清浄機等）に努めた。	玄関に手洗い場を設置したことや、加湿空気清浄機の設置など、感染症対策を意識した空間づくりができていると思う。	新型コロナウイルス等の感染症対策を意識した空間作りを行い、事業所を訪れるすべての人にとって居心地が良く、安心安全で清潔な事業所作りを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の回覧板の活用や集会などに出向く機会を作ることで、事業に関して理解を求めていく。	新型コロナウイルスの影響で、地域の集会等に出向く機会を失ってしまった。コロナ禍の時代に合わせたPR方法を検討していく必要がある。	新型コロナウイルスの影響で地域に出向く機会は減ったと思うが、まずは情報を収集することと、回覧板を有効活用して、広報誌を地域に発信してみてもどうか。	事業所の広報誌及びパンフレットの内容の見直しを図り、回覧板の活用やコロナ禍の時代に合わせたPR方法で、事業に関して地域の理解を求めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事やイベントの情報収集を行い、積極的に参加することで交流する機会を確保していく。	新型コロナウイルスの影響で、地域の行事やイベントに参加する機会を失ってしまったが、聖愛中学の生徒と窓越しではあるが、交流を図ることができた。	新型コロナウイルス感染症対策の徹底と時期を考慮した上で、小グループでりんご公園や嶽きみ購入、かっぱ寿司へ外出できたことは良かったと思う。	地域の行事等の情報収集を行い、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した上で交流する機会を確保する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域での取り組みや、心配な方についての情報交換の場として運営推進会議を有効活用していく。	件数としては1件であるが、出席者からの地域の心配な方の情報を受け訪問し、南部地域包括支援センターに情報提供することができた。	地域の高齢化も進んでいるが、代替わりなどもあり隣近所同士の顔が分からない人が増えている。行政への橋渡し役としての機能もあることを確認できた。	事業所が地域資源として地域住民に活用してもらえるよう、運営推進会議を有効活用していく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練へ参加し交流を図ることで、協体制度を構築する。	隣の自由ヶ丘町会の自主防災訓練に参加することができ、有事に備え交流を図ることができた。	消防計画（防災計画）を拝見したことはなかったが、整備されていることを知って安心した。	地域の防災訓練へ参加し交流を図ると共に、防災拠点としての機能を周知することで協体制度を強化する。